

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立西小倉小学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	4年生 121名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合的な学習の時間 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 （ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目が不自由な人の生活の苦勞や工夫を知り、ゴールボールの競技体験を通して、障がいをもった方たちと共生する社会について考えられるようにする。
5 取組内容	<p>ロンドン2012パラリンピック金メダリスト小宮正江選手を講師として招き講演会・体験会を行った。また、体験会（2クラスずつ）の空き時間に教務主任が「I'm POSSIBLE」を使った授業を行った</p> <p>○ 講演会（30分）</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>小宮選手から、目が見えないために生活の中で困っていることや工夫していること、目が不自由な方と接する時に、子どもに知っておいてもらいたいことなどを講演の中で話していただいた。</p> <p>「失ったものを数えるのではなく、残されたものを最大限生かす」という小宮選手が大切に思っている言葉を紹介していただき、言葉に込められた思いを話していただいた。</p> </div> </div> 

	<p>○ ゴールボール体験会（４０分）</p>  <p>実際にゴールボールを体験した。５名１組のグループを作り、簡単な練習を行ったあと、ゲームを行った。</p> <p>実際に全員がアイシェードを身に付け、ゴールボールの体験を行うことで、ゴールボールの面白さや難しさを体験するとともに、ゴールボール選手のスゴさ、目が不自由でも前向きに明るく生きようとしていることなどを知ることができた。</p> <p>○ 「I'm POSSIBLE」を使った授業</p> <p>児童がパラリンピックにより興味をもったり、選手について知ったりできるように、「I'm POSSIBLE」を活用した授業を行った。</p> <p>まず、パラリンピックの歴史や競技の特徴、その価値について学んだ。その後「タチアナ・マクファデン選手（陸上競技）」や「リカルド・アウヴェス選手（５人制サッカー）」の実話を基にパラリンピックの素晴らしさや大切さについて考えられるような学習を行った。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○ 小宮選手から実際に話を聞いたり、ゴールボールを体験したりすることを通して、目が不自由な立場になって考え、障がいをもった方たちとの共生ということについて考えることができた。</p> <p>○ パラリンピックについて知ること、興味をもったり、応援しようとする気持ちをもったりすることができた。</p> <p>○ パラリンピアン姿から、困難なことがあっても、自分も前向きに頑張ろうとする気持ちをもつことができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○ 小宮選手には昨年度、一昨年度と来ていただき、講演会・体験会をしている。同じ方に継続してきていただくことで、本校児童の様子を理解していただき、より活発な交流となった。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○ 事前指導、事後指導をよりしっかりと計画をたてて行うことで、成果をさらにあげることができると考えられる。総合的な学習の時間の単元構成を明確に行うことが大切。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○ 来年度も継続してパラリンピアンを招いての講演会・体験会などを行う。総合的な学習の時間との関連を図り、事前指導・事後指導をより計画的に行う。</p>